

---

# Flower Whisper

源雪風

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

Flower Whisper

### 【Nコード】

N6374K

### 【作者名】

源雪風

### 【あらすじ】

あたしは、同じクラスのリコに恋をした。

あたしが葉山リコを気にしだしたのは、中三の夏の偶然の出会いがきっかけだった。

家族でスーパー銭湯に行った時、同じクラスのリコを見つけた。リコは鏡を真つすぐ見つめて、一心不乱に体を洗っていた。

あたしは、リコの細くて白い腕と脚や、妖精のお姫様みたいな人間離れた美しさに見とれて、くらぐらした。

リコは頭も体も洗い終わったらしく、湯船に向かって歩いている。

ただそれだけなのに、その姿の美しいこと！

あたしの貧相な体とはとても比べ物にならないよ。

リコは自分の体に自信があるのか、タオルで前を隠さずに、凜とした足取りで歩いている。

同じクラスにここまでキレイな子がいたなんてどうして気が付かなかったんだ。

湯船に沈む姿まで、輝いて見えた。

あたしは急いで体を洗って、リコと同じ湯船につかった。

不意にあたしは、リコに後ろから抱きついて、びっくりさせたくなった。

でも、あたしとリコは、ほとんど他人だったからやめといた。

リコの白い肌に触ってみたかったが、どうしようもなかった。

クラスが同じなのもあって、あの日からずっとリコを観察するようになった。

それだけリコのが気になって仕方が無かった。

授業中にリコを盗み見ることも多くなった。

リコが先生に指されて、答えるときなんて、リコの声が聞けてうれ

しくて、壊れそうで、もうワケわかんなくて、授業どころじゃなかった。

でも相変わらず、リコに話しかけることは全くできなくて、リコにとってあたしは、他人に近いクラスメートのままだった。

やっぱり友達グループが違ったのが、大きかった。

リコは頭のいい系の大人しい女子とつるんでいたし、あたしは年中華キーキー騒いでいるようなおてんばギャル共とつるんでた。だから、これといった進展もなくむなしく日々は過ぎて行った。

ある日の保健体育の授業で、男女の体の違いについて教えこまれた。黒板には見たくもない男女の裸の絵が貼り付けられて、女の先生が馬鹿みたいに厳粛な面持ちであれこれ説明した。

こんなお粗末な絵と説明よりも、裸のリコを見たあの時の方がよっぽど全てを語っていると思った。

男の絵を見た時なんて、吐き気がした。

こんなおぞましい生き物が、同じ教室にいるなんて信じたくなかった。

男なんかよりも、リコの方が断然かわいいし、きれいだし、ときどきする。

気持ち悪くなりながら睨みつけたお粗末な男女の絵は、目が死んでいた。

リコのことをあきらめかけていた三学期。

体育の授業で思わぬチャンスが巡ってきた。

それは柔道の授業だったよ。

ウチの学校では、三学期の体育は剣道か柔道か、選べるんだ。

けれど、あたしのおてんばギャルグループは、みんな剣道の方に行っちゃったんだ。

で、リコの友達グループも、リコ以外はみーんな剣道に行った。

だからあたしとリコを遮るお邪魔虫たちは、みーんなよそに行っちゃったわけ。

しかも、技の練習をするときに二人組を作るんだけど、あたしとリコがきれいに余ったの。

この時は心の底から、神様サンキュ！って思ったね。

で、余り者同士めでたくペアを作ったわけよ。

もうあたし、心臓バツクンバツクンだったけど、一生けんめい何でもナイふりをした。

リコは、おどおどしながら

「よろしく・・・おねがいます。」

って天使みたいな声で言って、頭をぺこりと下げた。

本っ当にかわゆかった。

それで、技の練習を二人でしたのよ。

リコの柔らかい体が、あたしの体にぶつかって、恥ずかしくて、ちよっぴり悲しくって、もうぐるぐるぐるしちゃった。

あたしは調子に乗って、偶然のふりをしてリコの胸に触った。

とても言葉では言い表しきれないんだけど、あえて言うなら、ぱよんって感じがした。

しかも、柔道の授業中だけ、言葉を交わすようになった。

会話の内容は大したことなかったけど、リコと話せてよかった。

でもあたしとリコは、それ以上親しくならず、あっという間に中学を卒業しちゃった。

だから、あたしはリコと会えなくなった。

めちゃくちゃブルーになって、せっかくの春休みを遊びまわったりせずに、ほとんどウチに引き籠って過ごした。

リコとのお別れがよっほど嫌だったみたいで、毎晩寝るとリコが夢に出てきた。

今までこんなにブルーになったことなんてなかったから、もしかしたらあたし、死んじまうんじゃないかと思った。

苦し紛れにリコの名前を入れて、ネット検索してみたりした。そしたら、リコはブログを書いてるのが分かった。

あたしは普段、文字なんて読んだら寝ちまうタチなのに、もう死に物狂いでリコのブログを読んだ。

ブログには、好きなアイドルのこと、ファッションのこと、日々のつぶやきとかいっぱい書いてあった。

ブログを読み終えた時は、リコのことがいっぱい知れて、体が熱くなった。

でも、読み切った寂しさで脱力したよ。

あたし、気付いたんだ。

「やっぱあたし、マジでリコが好きなんだ。」って。

放心状態で、リコのブログを見ると、目が覚めるようないいことが書いてあった。

リコはミクシイをやってるらしい。

それならネット越しにリコとおしゃべりできるじゃんか！

あたしはすぐにミクシイに行って、リコを見つけた。

今となつてはなんて書いたか覚えてないけど、あたしが呼びかけたら、リコはすぐに返事をくれて、ほっとしてマジで泣いた。

話すうちに、リコとあたしはけっこう趣味が合っていることが分かった。

だからすぐに仲良くなれた。

実は今日リコと、マックで会うことになった。

あたしったら彼氏が出来た時みたいに、めいっぱいメイクして、この日の為に109で買った花柄のワンピース着て、今マックでリコを待ってるの。

自分でもびっくりするくらい、リコが好きみたい。

でも、別に友達のままでもいい。

あたしはリコと仲良くなれただけで本当に十分だから。



## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n6374k/>

---

Flower Whisper

2010年10月25日05時36分発行